

事後評価シート

コード 7-1-2	事務事業名 ファミリー・サポート・センター事業	所管部課 児童青少年部子育て支援課
--------------	----------------------------	----------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 仕事と子育ての両立を支援するため、地域の中で子育ての相互援助活動を行うことにより、安心して子育てができるような環境づくりを行い、もって児童福祉の向上を図る。	事業の区分 <input checked="" type="checkbox"/> 総合計画 <input type="checkbox"/> 行革項目 <input type="checkbox"/> その他の事務事業
	実施内容、実施方法 0歳から小学校6年生の子どもを育てている保護者(ファミリー会員)が仕事や家庭の都合で育児の支援が必要な時に、その地域に居住しているサポート会員が時間単位で有料で子どもを預かる。サポート会員希望者は所定の養成講習を受講する必要がある。運営は社会福祉協議会に委託。	根拠法令等 仕事と家庭両立支援特別援助事業実施要綱 西東京市ファミリーサポートセンター事業実施要綱
	事業開始時期 平成 13 年度	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ( )

評価指標の設定	活動指標名 説明会の開催	活動指標の考え方(定義) ファミリー会員希望者対象の説明会が開催された回数
	成果指標名 1次 説明会参加者数	成果指標の考え方(定義) 1次 ファミリー会員希望者対象の説明会に参加した人数
	1次 サポート会員登録者数	1次 講習会を受講し、サポート会員として登録をした人数(年度末会員数)
	2次 利用件数	2次 サポートサービスの利用件数

		単位	15年度	16年度	17年度	18年度
事務事業データ	事業費(A)		7,357	9,259	9,429	8,956
	国庫支出金	千円	3,688	4,742	4,712	4,476
	都支出金		1,838	1,885	1,942	967
	地方債					
	その他					
	一般財源		1,831	2,632	2,775	3,513
	所要人員(B)	人	0.4	0.3	0.3	0.2
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	3,309	2,498	2,456	1,637
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	10,666	11,757	11,885	10,593
	単位当たりコスト (E)=(D)/ ( 利用件数 )	千円	4	3	3	#DIV/0!
歳入	千円	0	0	0	0	
活動指標	目標値					
	実績値	回	25	23	22	22
活動指標	目標値					
	実績値					
1次成果指標	目標値	人			200	200
	実績値	人	227	187	180	
1次成果指標	目標値	人			200	200
	実績値	人	164	170	176	
2次成果指標	目標値	件			4,700	4,700
	実績値	件	2,785	3,633	4,318	

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	緊急時に対応できるシステムづくり、病後児・病児、障害児等の受け入れ、複数預かり(兄弟等)の対応、利用会員の要望に応えられる限度、等々諸問題の整理・確認が必要。
	26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	26市のうち22市で実施している(平成17年3月時点)。サービス水準に関しては、事業の対象者を始め、多少の差異はあるが各市とも概ね同等である。なお、11市が社会福祉法人に、4市がNPOに委託しており、直営は7市となっている。
	運営上の制約条件・外部要因等	都補助金について、交付対象期間が事業開始から10年間とされているため、その後の事業展開について検討を図っておく必要がある。(開始後5年経過し、18年度から4分の1 8分の1。)

コード 7-1-2	事務事業名 ファミリー・サポート・センター事業	所管部課 児童青少年部子育て支援課
--------------	----------------------------	----------------------

【事業所管部評価】

検証項目	選択基準	ランク	選択理由、特記事項等
1 目的の適切さ・目標	目的の妥当性 4 上位施策と目的が合致しており、施策に対する貢献度は他の事業と同程度である	▼	4 地域における子育て支援の一環であり、育児に関する相互援助活動を行い、地域の育児力を培う大切な事業である。
	目標の妥当性 2 目標を定量的に設定できないが、定性的には設定している	▼	
	緊急性 4 今後しばらくの間、少しずつでも継続して実施する必要がある	▼	
2 市が関与する必要性	法的義務性 2 法律・条例での規定はないが、通達や要綱・要領で実施が規定されている	▼	2 本事業は厚生労働省「仕事と家庭両立支援特別援助事業」を背景に成り立つ。
	必要性 4 安全・安心・健康な市民生活の水準の維持に不可欠なサービスである	▼	
	民間との役割分担 4 他に同種・類似サービスを提供しているのは、他の公共団体のみである	▼	
3 内容の適切さ	ニーズ 2 市民(庁内)ニーズが推測でき、推測に見合ったサービスであることを説明できる	▼	2 利用者の声、要望等をふまえ、より利用しやすい事業となるよう、利用時間拡大等、事業者と調整、見直しを行っている。
	規模・方法の妥当性 4 事業規模や方法は、対象者等の具体的なニーズに基づき数年おきに見直している	▼	
	公平性 1 直接の対象は、自ら希望する一部の市民または団体である	▼	
4 実施手続の適切さ	有効性 4 現在、質・水準の改善に取り組んでおり、成果の向上が期待できる	▼	4
	効率性 4 既に他の実施主体を全面的に活用し、コスト低減に取り組んでいる	▼	
	独自性 5 国・都及び庁内には同種の目的を有する他の事務事業はない	▼	
合計			40

	評価結果	判断理由、説明等
総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>この事業は市民に広まってきており、年々利用件数が増えてきているものであり、仕事と育児の両立や、子育てをしている家庭への支援を行う上で本事業は重要な役割を担っているといえる。市民からの要請に対しても、十分対応できるだけの体制は整っており、今後サポート会員を増やすことで、より安心できる子育て支援を推進していきたい。</p>

18年度における改善点	ファミリー会員及び利用件数増加に比して、サポート会員が少ないことや地域による偏りが見られるため、いかにサポート会員を増やしていくかが今後の課題である。委託事業者(社会福祉協議会)と協力・連携を図り、市報・HP等を通じて広く市民へのPRを図りたい。
-------------	---

二次評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、厚生労働省の「仕事と家庭両立支援特別援助事業」を背景に、少子化対策の一環として実施されているものであり、大変重要な施策であるといえる。</li> <li>・現在、本事業を実施するに当たっては、社会福祉協議会に全面的に委託を行っているものである。しかしながら、委託先が社会福祉協議会でなければならない必然性はないであろうと思われ、委託先が妥当であるか、委託料は適正な額となっているかなどについて、十分検証する必要がある。</li> <li>・NPO等の活用も十分視野に入れるべきである。</li> </ul>
------	---	--

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>本事業の利用件数が年々増加傾向にあることから、本事業に対しての子育て世代への認知度や事業実施の必要性が高いことがわかる。よって、今後は、より安心して子育てを行うことのできる環境を整備するため、サポート会員の増加や地域的な偏りの解消に向けた取り組みが必要である。</p> <p>また、今後の運営の委託に当たっては、これまでの実績を検証し、かつ、多様な担い手が出現しつつあることを踏まえ、費用対効果を十分考慮しながら需要に応じていく必要がある。</p>
--------	---	---